

【 注射 】

199 ベバシズマブの単独投与について

《令和6年6月28日》
《令和6年10月31日更新》

○ 取扱い

悪性神経膠腫以外の傷病名に対するベバシズマブ（遺伝子組換え）（アバスチン点滴静注用等）の単独投与※は、原則として認められない。

※ 他の抗悪性腫瘍剤との併用が確認できない場合

○ 取扱いを作成した根拠等

ベバシズマブ（遺伝子組換え）（アバスチン点滴静注用等）は、再発悪性神経膠腫以外での単独投与での有効性及び安全性は確立していないとされており、添付文書の用法・用量においても、効能・効果に記載のある傷病名のうち、悪性神経膠腫以外の疾患に対しては、各疾患に応じ、パクリタキセル、アテゾリズマブ（遺伝子組換え）や他の抗悪性腫瘍剤と併用することが示されている。

以上のことから、悪性神経膠腫以外の傷病名に対するベバシズマブ（遺伝子組換え）（アバスチン点滴静注用等）の単独投与は、他の抗悪性腫瘍剤等との併用が確認できない場合、原則として認められないと判断した。

なお、卵巣癌については添付文書に「本剤とカルボプラチン及びパクリタキセルを併用する場合は、併用投与終了後も本剤単独投与を継続すること（本剤を継続投与しない場合の有効性は確認されていない）」と示されていることから、併用投与終了後であれば認められる。